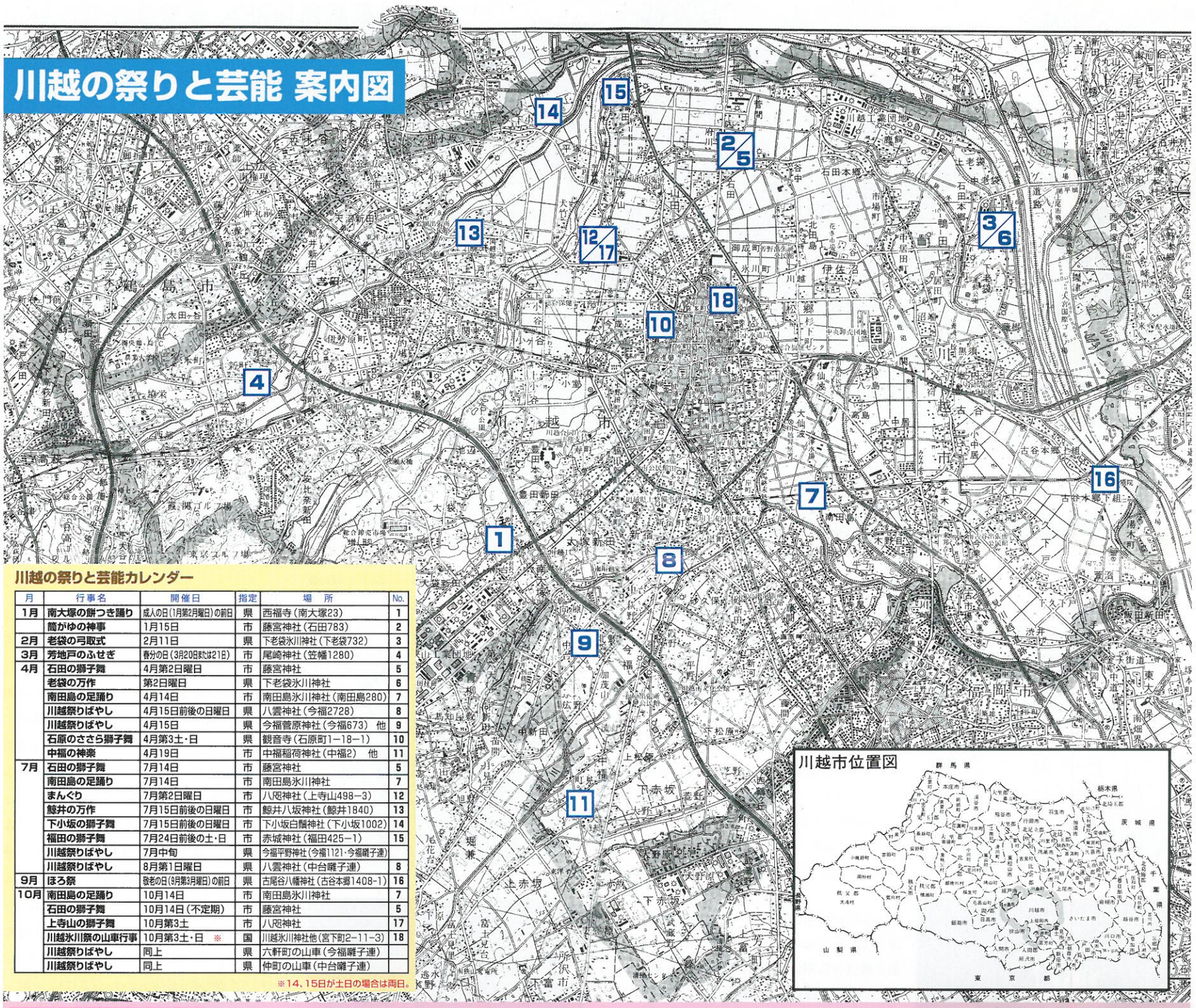
川越の祭りと芸能 案内図



川越の祭りと芸能カレンダー

月	行事名	開催日	指定	場所	No.
1月	南大塚の餅つき踊り	成人の日(1月第2月曜日)の前日	県	西福寺(南大塚23)	1
	筒がゆの神事	1月15日	市	藤宮神社(石田783)	2
2月	老袋の弓取式	2月11日	県	下老袋氷川神社(下老袋732)	3
3月	芳地戸のふせぎ	春分の日(3月20日または21日)	市	尾崎神社(笠幡1280)	4
4月	石田の獅子舞	4月第2日曜日	市	藤宮神社	5
	老袋の万作	第2日曜日	県	下老袋氷川神社	6
	南田島の足踊り	4月14日	市	南田島氷川神社(南田島280)	7
	川越祭りばやし	4月15日前後の日曜日	県	八雲神社(今福2728)	8
	川越祭りばやし	4月15日	県	今福菅原神社(今福673) 他	9
	石原のささら獅子舞	4月第3土・日	県	観音寺(石原町1−18−1)	10
	中福の神楽	4月19日	市	中福稲荷神社(中福2) 他	11
7月	石田の獅子舞	7月14日	市	藤宮神社	5
	南田島の足踊り	7月14日	市	南田島氷川神社	7
	まんぐり	7月第2日曜日	市	八咫神社(上寺山498−3)	12
	鯨井の万作	7月15日前後の日曜日	市	鯨井八坂神社(鯨井1840)	13
	下小坂の獅子舞	7月15日前後の日曜日	市	下小坂白鬚神社(下小坂1002)	14
	福田の獅子舞	7月24日前後の土・日	市	赤城神社(福田425−1)	15
	川越祭りばやし	7月中旬	県	今福平野神社(今福1121・今福囃子連)	
	川越祭りばやし	8月第1日曜日	県	八雲神社(中台囃子連)	8
9月	ほろ祭	敬老の日(9月第3月曜日)の前日	県	古尾谷八幡神社(古谷本郷1408-1)	16
10月	南田島の足踊り	10月14日	市	南田島氷川神社	7
	石田の獅子舞	10月14日(不定期)	市	藤宮神社	5
	上寺山の獅子舞	10月第3土	市	八咫神社	17
	川越氷川祭の山車行事	10月第3土・日 ※	国	川越氷川神社他(宮下町2−11−3)	18
	川越祭りばやし	同上	県	六軒町の山車(今福囃子連)	
	川越祭りばやし	同上	県	仲町の山車(中台囃子連)	

※14、15日が土日の場合は両日。

ご見学にあたって

●行事の日時は変更されることがあります。 ●悪天候のため、中止となる場合もあります。 ●駐車場はありません。公共の交通機関等をご利用ください。
●地域で大切に守られてきた伝統文化財です。行事をさまたげることなく、地域の方々や他の見学者の迷惑にならないようご注意ください。
●行事の日程は広報川越などでお知らせしていますが、詳しいことは文化財保護課にお問い合わせください。●川越シャトルは、総合福祉センター(オアシス)を起点に運行しています。ご利用に際しては運行ルートをご確認ください。●ここでは、川越市内に伝わる祭りや芸能のうち、指定文化財(無形民俗文化財)を掲載しています。

川越市教育委員会
生涯学習部 文化財保護課
〒350-8601 川越市元町1−3−1
電話 049−224−8811
(内線2861)

平成19年3月31日発行

1 南大塚の餅つき踊り

昭和52. 3. 29 県指定 南大塚餅つき踊り保存会

成人の日の前日の日曜日に演じられる。もともとは11月15日、裕福な家の帯とき祝い(七五三)に呼ばれて搗いたという。セッタイモチとも、また、西福寺から隣の菅原神社まで臼に綱をつけて曳きながら搗く場面もあるので、ヒキズリモチともいう。

大釜で蒸しあげた糯米を臼に入れると「ヤレヤレ」のはやしことばを合図に「めでためでたが三つ重なれば…」の歌にあわせ、6人から8人で行なうナラシから始まる。その後ツブシ(一斉に搗く)、ネリ(一同で押せ、押せとねる)を経て、コネドリ1人ツキテ3人一組が餅を搗き始める。ツキテ3人で搗くサンテコは「お江戸じゃ日本橋 神奈川…」などの歌にあわせて搗くが、6人で搗くロクテコには歌は入らない。杵ワタシ・カツイデヒトメグリ・股クグリ・モチキッカリ・ケコミ・ダマシヅキ・キネノホウリナゲなどの曲芸を入れて威勢よく搗いていく。最後にアゲヅキで仕上げる。

万作踊りとの関係が深い祝福の行事である。

●西武鉄道新宿線「南大塚」駅徒歩12分

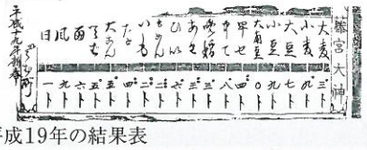
2 筒がゆの神事

昭和47. 2. 8 市指定 藤宮神社

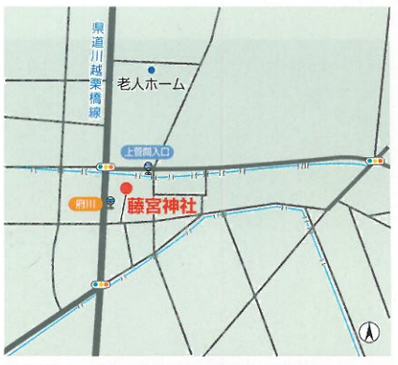
昔は1月15日午前0時、真夜中に行われ、神職以外は見ることも出来ない行事であったが、現在は1月15日の早朝に行われる。その年の作柄と天気を占う神事で、カユウラともいう。

境内にかまどを置き、大釜を据えて小豆1合・米1升・水1斗を入れて煮、小豆粥を作る。
そこに神職が、18本の短いヨシヅツをすだれ状に編み、丸めたものを、2本のニワトコの木でつくったカユカキボウにはさんで、2回かき回すように浸す。

取り出したヨシヅツは神前で祈願されたあと、神職が1本ずつ割り、ヨシヅツに入っている米粒の数を調べ、大麦・小麦・大豆・小豆・大角豆・早稲・中手・晩稲・あわ・ひえ・木綿・芋・菜・大根・そばの作柄と雨・風・日の程度を占うのである。占いの結果は表にしたためられる。神事が終わった後は、小豆粥が振舞われるが、食べると虫歯にならないといわれている。



平成19年の結果表



●東武バス川越駅東口発(本川越駅経由)
桶川駅西口行「府川」下車徒歩3分

3 老袋の弓取式

平成8. 3. 19　県指定　　老袋の弓取式保存会

毎年2月11日に下老袋の氷川神社境内で行なわれる行事である。昔は正月11日の行事であった。アマサケマチ・トウフサシとも呼ばれる。

同社は、上老袋・中老袋・下老袋・東本宿の氏神である。ミヤモトである下老袋では、弓取式に使う弓矢と的、甘酒を用意し、上・中老袋が交替で豆腐田楽を作る。東本宿は、甘酒の準備を手伝う。

ユミトリッコは6才までの男の子が各地区から選ばれるが、実際には地区総代が代理として弓を射る。的に向かって3本ずつ3回射るが、的の白い部分と黒い部分に当たった矢の本数を数えて、白が多いと晴天が多く、黒が多いときは雨が多いといわれている。

全ての矢を射終わると、地元の人たちが矢や的を奪い合う。矢を持ち帰ると、子供が丈夫に育つと言われている。また、境内では、甘酒と豆腐田楽が振舞われ、こちらもご相伴にあずかると一年間健康にすごせると言われている。

●東武バス川越駅東口発（本川越駅経由）
上尾駅西口行「老袋」下車徒歩8分

●川越シャトル東コース「中老袋」下車徒歩5分

4 芳地戸のふせぎ

昭和47. 2. 8　市指定　　尾崎神社

毎年春の彼岸の中日（春分の日。3月20日または21日）に行なわれる、悪魔払いの行事である。享保6年（1721）に疫病が流行したことから始まったといわれ、古式をよく伝えている。行事当日は、午前中に尾崎神社境内で神輿と辻札を作る。神輿は、わらの台座を作り、竹を渡して担ぎ棒とする。その上に四角の木製の台を置き、中央にご神体を取り付ける。台の縁にある15ヶ所の穴に榊の枝を挿し、その周囲に注連縄を回す。台の四隅には樫の小枝をくくりつける。辻札は陰陽2種あり、篠竹に御札をはさんだものと、紙垂と輪飾りをはさんだものがあり、先端に藁で作ったボンテンをつける。

午後は神社社殿でふせぎの祈禱を行なうと、村回りの行列が出発する。ふれ太鼓を先頭に、辻札を子供たちが持ち「よーいど　まだ　まだ」とはやしながら進む。各家の玄関前では、家人にお祓いをし、神社札を門口に貼る。行列は早足ですすみ2時間半ほどの行程である。村回りが終わると、村の境9ヶ所に辻札を立てる。

●JR川越線笠幡駅下車徒歩16分

●川越シャトル北コース「尾崎神社」下車徒歩3分

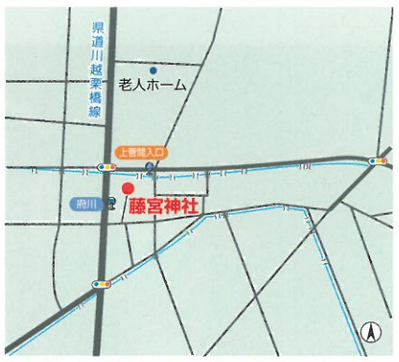
5 石田の獅子舞

平成16. 3. 24　市指定　石田獅子舞保存会

むしろの上に麦や米を広げて干すように、腰を低くかがめて荒々しく舞うことから「干しもん獅子」とも呼ばれる。かつては、4月8日の春祈禱、7月14日の天王様、10月14日のオヒマチ（秋祭り）の年3回行われていた。20年程前に後継者不足などで中断したが、平成10年に復活し、4月第2日曜日、7月14日、10月14日（不定期）に行われている。

獅子は、大獅子・小獅子・女獅子の3頭で、獅子の他には、山の神（ハイオイ）1人、ササラッコ4人、提灯持ちとホラ貝吹き、それに笛方と歌方が数名加わる。獅子と山の神は成人男性、ササラッコは女子である。

曲目は、一庭つまり一曲形式で、鳥居から境内にはいると「この庭はたてが十五里よこ七里入りをよく見て出端にまような」を始めに獅子歌が次々と歌われ、それに合わせて獅子が舞う。場面は前庭から腰休め、花見、女獅子かくし、女獅子争いと進み、出端で終わる。舞の途中に「誉め言葉」と「返し言葉」のやりとりがあるのが特徴である。



●東武バス川越駅東口発（本川越駅経由）
桶川駅西口行「府川」下車徒歩3分

6 老袋の万作

昭和52. 3. 29　県指定　　老袋万作保存会

4月第2日曜日、老袋氷川神社の春祈禱の日に、境内に舞台を掛けて行なわれる。明治25年頃、出丸中郷（現川島町）の紺屋のマッツァンから習ったのが始まりと伝えられ、村の祭りに参加したり、新築の農家などに招かれて踊ったという。万作踊りから万作芝居も演じるようになり、老袋出身の忍川屋村田銀蔵（1890～1979）が中心となって、昭和13年頃までは盛んに演じられた。 その後衰退したが、昭和38年に復活した。

万作には、手踊り・段物・芝居・茶番狂言があるが、老袋ではいづれも伝承し、豊富な内容を誇っている。手踊りは、「下妻踊り」「伊勢音頭」「手拍子」「鈴木主水」がある。太鼓と四ッ竹で拍子をとりながら軽快に踊る。踊りに演劇の要素を加えたものを段物といい、「笠松峠」「白枡粉屋」がある。

また、芝居では「お半長右衛門」「小栗判官供養の場」が、そして、県内では伝承地区が少なく貴重となった茶番狂言に「お玉ヶ池」がある。

●東武バス川越駅東口発（本川越駅経由）
上尾駅西口行「老袋」下車徒歩8分

●川越シャトル東コース「中老袋」下車徒歩5分

7 南田島の足踊り

昭和49. 5. 11　市指定　　南田島囃子連足踊り保存会

南田島氷川神社の4月14日の春祈禱・7月14日の天王さま・10月14日のオヒマチに奉納され、川越氷川祭でも演じられることがある。南田島の囃子は、堤崎流の系統であるが、他の囃子連にはない足踊りが継承されている。人形を操る人があお向けに寝て、腰に座布団を当て、足先にオカメとヒョットコの面をつける。着物の袖に手を通し、日傘や扇子などを持つ。始めにオカメが登場し、しばらくしてヒョットコが現れると、オカメとの掛け合いをニンバの曲に合わせ演じていく。演者は両手両足を高く上げ続け、かなりの体力が必要である。

もともとわらに棒をさしこみ、手ぬぐいを男被りと女被りにして演じたといわれているが、明治時代初期に森田森之助（1857～1936）が、人形浄瑠璃を参考に、足人形に面をつけるようになったという。その後、萩原泰治（1897～1974）と森田元次郎（1902～1969）が受け継ぎ、さらに改良を重ねて現在の形となった。

●JR川越線南古谷駅下車徒歩20分

●JR川越線・東武東上線川越駅下車徒歩35分

8 川越祭りばやし

昭和52. 3. 29　県指定　　中台囃子連中

川越地方の祭りばやしは、江戸時代後期に伝えられた江戸ばやしがもとになっていると言われており、王蔵流・芝金杉流・堤崎流の三流派の系統に大別できる。大太鼓1・小太鼓2・笛1・鉦1で必ず舞方が付く。

中台の祭りばやしは、里神楽から発展し、江戸時代後期に高井戸の笛角と呼ばれる人から指導を受けて祭りばやしの基礎をつくった。その後明治時代の始めに松平不味侯のお抱えの囃子方であった王蔵金の指導によって、それまでの囃子を刷新したと伝えられている。その由来により「王蔵流」と称している。

川越氷川祭では、江戸時代後期より仲町（旧志義町）の囃子方を務めている他、地元八雲神社の祭礼（4月15日前後の日曜日・8月第1日曜日）にも囃子を奉納している。現在の伝承曲は、屋台・鎌倉・鎌倉攻め・宮昇殿・いんば・子守り歌・数え歌・四丁目・大間昇殿である。川越周辺に流派の広がりがあり、市内6ヶ所と市外2ヶ所には直接伝授した。

●西武バス本川越駅発（川越駅西口経由）
新所沢駅東口行「中台」下車徒歩2分

9 川越祭りばやし

昭和52. 3. 29　県指定　　今福囃子連中

今福の祭りばやしは、もともとは中台と同じであったが、明治初年になって分かれたと伝わる。その後、五宿（現在の調布市）の囃子の師匠であった福岡仙松の指導を受け、にぎやかな新囃子にかわった。福岡仙松は芝の金杉橋付近で下駄屋を営んでいたので、それに因んで「芝金杉流」と称するようになったという。

明治21年に六軒町が山車を新造した際に、他の囃子連と競争して選ばれたと伝えられているが、それ以後、川越氷川祭には六軒町の山車の上で囃子を演奏している。また、地元の菅原神社（4月15日・10月15日）・平野神社（7月中旬）の祭礼にも囃子を奉納する。現在の伝承曲は、屋台・宮昇殿・鎌倉・鎌倉攻め・師調舞・トッパトーガク・いんば・子守り歌・数え唄・八百屋お七である。川越周辺に流派の広がりがあり、今福から市内8ヶ所と市外2ヶ所に伝えられている。

●今福菅原神社：西武バス本川越駅発（川越駅西口経由）新所沢駅東口行「県営今福団地」下車徒歩12分
●今福平野神社：同上バス「かすみ町」下車徒歩4分

10 石原のささら獅子舞

昭和55. 3. 29　県指定　石原のささら獅子舞保存会

以前は4月18日に行なわれていたが、現在は4月の第3土・日に行なわれる。（陰祭は日曜のみ）慶長12年（1607）に始められたと伝えられ、寛永11年（1634）川越城主酒井忠勝が若州小浜に国替の際、雌雄2頭と舞人を伴ったため中断したが、宝永6年（1709）に太田ヶ谷（現鶴ヶ島市）に習って復活したと伝えられる。獅子は、先獅子・中獅子・後獅子で成人男性が演じる。山の神は少年で、4人のササラッコは少女がつとめる。舞は十二切と呼ばれ、12の場面に分けられる。第5場面では「太鼓の胴をきりりとしめて、ささらをさらりとすりそめさいな」などの小唄があり第9場面は雌獅子隠しの乱舞がある。2年に1度の本祭りでは、観音寺を出発して町回りを行なった後、「昇殿一つ打ちの舞」を舞いながら高沢橋を渡る。対岸の元町2丁目では自治会役員が迎え、井上家の庭で一庭舞う。その後は観音寺に戻り、一庭半舞う。半分の舞を来年に残す意味があるという。最後に長老が「千秋楽」を歌って終了する。

●東武バス川越駅東口発（本川越駅経由）若葉駅行「高沢橋」下車徒歩2分

11 中福の神楽

昭和50. 6. 9　市指定　　中福の神楽保存会

入間・北足立・多摩地方には、東京都府中市の大国魂神社の宮司が始めたと伝えられる、相模流神楽が伝承されている。中福の神楽はこの相模流に属し、根岸家が代々元締をつとめている。曲目は一曲一座形式で、「墨江三柱大神」「三穂崎魚釣」「八岐太蛇」「神田種蒔」「猿田大神」などがあるが、初めに「三番」と称して墨江三柱大神の舞を奉納し、猿田大神の舞で終わる通例である。

神楽は、神社の祭りなどに招かれると、出方と称して、親戚や近在の人を頼んで一座を組む。現在は、地元の中福稲荷神社の春祈禱（4月19日）を始め、増形白山神社（4月20日・7月14日・10月17日）、藤間諏訪神社（4月27日・8月27日）、下赤坂八幡神社（9月15日）、川越氷川神社（10月15日）、東村山市野口八坂神社（7月15日に近い日曜日）などに、頼まれると神楽を奉納している。

なお、明治末から昭和初期に根岸勝広・馨氏が彫った神楽面が残されており、市の有形民俗文化財に指定されている。

●中福稲荷神社：西武バス本川越駅発（川越駅西口経由）新所沢駅東口行「下赤坂」下車徒歩10分

12 まんぐり

昭和47. 2. 8　市指定　　八咫神社

以前は7月14日に行なわれていたが、現在は7月第2日曜日に行われている。まず、上寺山公民館でボンテンと辻札を作る。以前は年行事が時田家に集まって作っていた。ボンテンは、まず、青竹に麦わらを俵状に束ねて巻き、その頭頂に幣束を3本挿す。幣束は大天狗（1本）・子天狗（2本）と呼ばれている。さらに五色の幣串をたくさん挿す。五色の幣串は、余分に作って各家に配っていたが、現在は行事に参加した希望者に渡している。

八咫神社で祈願した後、しめ縄をかけた青竹を先頭に、ほら貝・ボンテン・辻札を持った人が続く。ボンテンは、前の人が肩に担ぎ後の人が腕に抱えて、斜めになるように運び、時おりボンテンの足を地面につけ引きずるようにして走りまわる。村境の4ヶ所には辻札をたて、村境の入間川では、川に入り皆でボンテンに水をかける。その後は八咫神社境内にある石尊さまに運び、前年のボンテンと取り替える。

大山信仰の影響を受けた夏の祓えの行事である。

●東武バス川越駅東口発（本川越駅経由）若葉駅行「下寺山」下車徒歩7分
●川越シャトル北コース「上寺山」下車徒歩10分

13 鯨井の万作

昭和55. 2. 13　市指定　　鯨井の万作保存会

7月15日前後の日曜日、天王様の行事に演じられる。大きな獅子頭が若者たちに担がれて神社を出発すると、村回りの途中何度か休憩を取るが、休憩する家の庭先などで万作踊りが演じられる。

明治末年に鯨井の真仁田市平が村人に教えたのが始まりと伝えられ、昭和初期には「巡回連」という名前で各地の花見に出向いたり、周辺の祭りに頼まれて踊ったという。その頃は、派手な女の着物を借りて踊ったというが、現在は、ねじり鉢巻に揃いの袢纏、地下足袋といういでたちである。

踊りは、太鼓と笛、鉦の音に合わせて、「そうだあよそうだよヨホホイ　今年は世が良い豊年年だからヨホホイ　穂にほが重なり枡はまたいらぬでヨホホイ・・・」と歌い、それに合わせて「下妻手踊り」が踊られる。横一列に並び、老若男女幼い子供たちまで揃って勇壮に踊る。

この他「数え歌」「追分」「八木節」「相撲甚句」「伊勢音頭」などがある。

●東武東上線霞ヶ関駅下車徒歩17分
●川越シャトル北コース「西文化会館入口」下車徒歩1分

14 下小坂の獅子舞

平成14. 2. 25　市指定　　下小坂獅子舞保存会

7月15日前後の日曜日に行われる、白鬚神社境内に祀られている天王様の行事である。その起源は元禄3年（1690）に、永命寺境内に薬師堂を建立したのを記念して始めたという説と、寛政年間（1789～1801）に、悪疫退散のため入間川宿（現狭山市）の獅子舞に習って始めたという説がある。

獅子は、大獅子・中獅子・女獅子の3頭で舞手をシシクルイッコという。その外仲立ち1人、ササラッコ4人の他、棒使い2人がおり、すべて少年が演じる。

以前は、村回りをしたが、現在では、自治会館から「道くだり」の笛にのって白鬚神社に向かう。参道では笛の音が「唐人くだり」の曲に変わり、境内に入る。最初に棒使いによる棒術が演じられた後、獅子が舞いはじめる。曲目は「女獅子隠し」ほか数曲があり、間に「仲立は京に生まれて伊勢育ち、腰に差したる伊勢のお祓い」などの歌が入る。舞い終わると、参加者が境内を巡って「千秋楽」の言葉を唱え、手締めをして終る。

●東武バス川越駅東口発（本川越駅経由）若葉駅行「東洋クオリティワン入口」下車徒歩5分

15 福田の獅子舞

昭和63.1.29　市指定　　福田の獅子舞保存会

天王様の行事で、昔は、7月23日・24日であったが、現在は7月24日前後の土日に行われている。天王様はもともと星行院にあったが、明治以降赤城神社に移されたので当日は御仮屋をたてて、お迎えしている。まず土曜日の夜はソロエといって一庭舞い、日曜日の本番の日には、「四方固め」といって神職と獅子一行が地区を廻り、地区境にフセギ札を立てる。途中堤防の上（九頭龍様）・山下家の庭（天王様跡）・小高家の前（長生寺跡）で一庭舞い、村まわりのあと赤城神社で何度か舞う。

獅子は、先獅子（雄）・中獅子（雌）・後獅子（雄）で、先獅子と中獅子は300年程前に入間川を流れてきたという伝承がある。獅子とハイオイを舞うのは中学生の男子で、その外ササラッコは女子が演じている。現在、横笛の奏者が少なくなったところから、保存会の会員で音楽の先生であった小高勝次氏が採譜し、小学生による縦笛演奏を養成するなど伝承に努めている。また、2日目の最後の舞は、熟練の青年が横笛の音に合わせて舞う。

●東武バス川越駅東口発（本川越駅経由）
八幡団地・東松山駅・鴻巣免許センター行
「城西高校」下車徒歩5分

16 ほろ祭

平成10.3.17　県指定　　ほろ祭保存会

以前は9月15日の行事であったが、現在は敬老の日の前日の日曜日に行われる。ホロカケマツリとも呼ばれる。

ホロは、薄桃色の紙花の付いた竹ひごを36本束ねて、背負いかごに上から差込み、その竹ひごを反らせて糸で固定したものである。これを背負うホロショイッコは、古谷本郷の上組と下組から2人ずつ選ばれた小学校低学年の男子である。いでたちは、腹掛け・手甲・脚絆・黒足袋に陣羽織で、顔は美しく化粧して頭には鉢巻を巻く。

当日、ホロショイッコは用意を整えると、近所に挨拶周りに出かける。家では、親戚や日頃お世話になっている人を招いて祝宴が開かれ、父親がホロショイッコに三献渡した後、客に挨拶する。六尺棒を持った青年団が迎えに来ると古尾谷八幡神社に向い、神前にお参りして、神輿の渡御にお供する。一の鳥居を出ると、4人のホロショイッコは、背負いかごの中の鈴を鳴らしながら練り足を踏み、御旅所をめざす。両親をはじめとした親族が取り巻いてはげます。元服式の色合いが強い行事である。

●西武バス本川越駅発（川越駅東口経由）
川越グリーンパーク行「古谷上」下車徒歩35分

17 上寺山の獅子舞

平成4.8.7　市指定　　上寺山獅子舞保存会

昔は10月22日に行われたが、現在は10月第3土曜日に行われる。当日は、公民館（昔はシシモトと呼ばれた時田家）を出発し、八咫神社に向かう。

境内では、まず「仲立ちの舞」から始まる。イレハから竿掛かりとなり、仲立ちの歌の後、ケンカバでは女獅子が花笠に隠れ大獅子と中獅子が争う。次の「十二切の舞」では、「唐から下りた唐絵のびょうぶ一重にさらりと引きまわさいな」など12の歌が歌われる。また、「東西東西、暫く暫く…」と誉め言葉が獅子にかかるのも特徴である。誉め言葉がかかると返し言葉で応じる。獅子は、大獅子・女獅子・中獅子で、山の神とともに男子が演じ、ササラッコは女子である。

獅子舞の起源は伝わっていないが、秋元侯が川越藩主であった頃、竹姫という姫君の眼病平癒のために21日間獅子舞を奉納し祈願したところ、たちどころに姫の眼病が直った功績により、葵の御紋の入った麻幕を下賜されたという伝承が残されている。

●東武バス川越駅東口発（本川越駅経由）若葉駅行
「下寺山」下車徒歩7分
●川越シャトル北コース「上寺山」下車徒歩10分

18 川越氷川祭の山車行事

平成17.2.21　国指定　　川越氷川祭の山車行事保存会

川越氷川神社の秋の例大祭に行なわれる。慶安元年（1648）、当時の川越藩主松平信綱が神輿・獅子頭等の祭礼道具を寄進し、氏子域である十ヶ町に祭の執行を促したのが始まりである。天下祭と呼ばれた赤坂山王祭・神田祭の影響を受けて発展した。江戸時代に城下町で発達した都市型祭礼の一つであり、江戸型山車の巡行する祭礼行事の代表である。

現在の山車行事は、10月第3土・日曜日（14・15日が土日の場合同日）に行われる。各町内では、伝統的な町内組織である年行事制度が基盤になっている祭組織を作り、準備を始める。祭が近くなると、神幸祭が通る道の端に紅白幕を張り巡らし、会所の設営、山車のきっくみ（組立）が行われる。

祭当日は、近在の農村から囃子方が招かれ山車の上で囃子を行う。運行は鳶の頭が運行責任者となり、町内の役員が宰領となって指示する。氷川神社への社参や町内曳きの後、他町に曳き回すが、山車に出会うと囃子を演奏しあう曳っかわせが見所となっている。

●東武バス川越駅東口発（本川越駅経由）
埼玉医大・上尾駅西口・平方行「宮下町」下車徒歩1分